

東日本大震災の記憶を次世代につなぐ 「宮城県岩沼市“千年希望の丘”体験ツアー」を終えて

千歳セントラルロータリークラブ

千歳セントラルロータリークラブは、2013年10月11日（土）～12日（日）の2日間の日程で、公募した地元の中学生10名と共に東日本大震災の被災地を訪れました。

私たちは震災発生当初から震災復興の支援事業に取り組み、震災発生の1年後にあたる2012年3月11日に千歳ロータリークラブと共に復興支援事業としてチャリティ・イベントを開催し、100万円の収益金を千歳市に避難されていた避難者の方々へ県人会を通じお渡しすることができました。

以後1年間に亘り、現地を訪問し「今私たちができること」とは何なのかと、宮城県の岩沼ロータリークラブのご協力を頂きながら検証を進めて参りました。そして今回、「東日本大震災の記憶を次世代につなぐ」ことが今被災地には必要であることと認識し、今回の事業「宮城県岩沼市“千年希望の丘”体験ツアー」を立案し、計画するに至りました。

当初は、10代前半の子ども達を被災地に連れて行き、果たしてどれだけの成果が上がるものかと不安に思うこともありましたが、参加することも達を公募する中で、こども達から提出された「参加動機」の小作文に目を通し、事業の成果を主催者側が事前に思い描くことは間違いなのだと気づかされました。小作文には、こども達の被災地への思いがそれぞれに書き描かれていました。主催者側が、意図して学習する内容を必要以上に準備することは必要のないことです。こども達が自分たちの五感で感じ入ってもらうことが何よりも必要なことなのです。

今回の事業での行程は、地元の岩沼市玉浦中学校への訪問・交流、震災の月命日にあたる日時に献花、“千年希望の丘”での植樹の3件だけを事前にお願ひし、他はすべて地元の岩沼ロータリークラブの皆様へお任せしました。

私たちがメディアで知る被災地の情報から計画を立てるのではなく、被災者でもある岩沼ロータリークラブの皆様にお願ひすることが、こども達へ主催者からの唯一の伝言でありました。

参加したこども達は、初めての環境と被災地の現実を目の当たりにした緊張感で、はじめは表情が硬いままでしたが、被災地を見学し、地元の方々の話を聞くうち、その表情は真剣な眼差しへと変わっていきました。地元のマスコミからのインタビューにも打合せなしで、自分たちが感じたありのままの被災地への思いを語るようにまでなっていました。

わずか1泊2日の日程ではありましたが、参加したこども達は確かに東日本大震災の記憶をつなげてくれると確信しています。

そして、今回の事業で体感したことを大切にして、ふるさとを思う気持ち、人への思いやりの心を持ち、元気に成長してくれることを願っています。



千年希望の丘で20本のヤマザクラを植樹



山元町中浜地区の慰霊碑



山元町中浜地区の慰霊碑